

(学年) 4年	(日にち) 11月
(教科・単元名) 国語 詩を楽しもう 「ぼく」木村信子作(光村4上 3時間扱い)	
<p>(実践) 言葉の持つ意味や情景を想像して読み、作者が伝えたかったことを考える。</p> <p>【授業の流れと児童の反応】</p> <p>1. 音読。一人読みをし、行間に書き込みをする。 書き込みの視点を与える。見えてきたこと(様子)、心に感じたこと、言葉のよさ、友達の意見を聞きたいことを書かせる。</p> <p>2. 書き込みをしたことをもとに、「ぼく」を読んで感じ取った内容について話し合う。本時の感想をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たった ひとり・・・見た目周りから見るとぼくは小さい。地球の中では、とても小さい。ちっぽけな存在。ぼくというものは、自分だけ。自分と同じ人はいない。 ・ たった たった ひとり・・・一人きりしかいない「ぼく」。きちょうな存在。 ・ かずにならないくらい ひとり・・・とても小さい。たくさん人がいる中での一人。 →「たった」「たった たった」繰り返されているので、ひとりを強調している。ぼくが、小さくなっていく様子が分かる。 ・ の ぼく・・・間が空いているのはどうして？ ・ ぼくという 宇宙なんだ・・・かけがえのない存在で、ぼくが死ぬと宇宙がかけてしまう(宇宙=ぼく)。自分にとってぼくは、すごい存在。ぼくの中は、大きくて広い。ぼくの中に詰まっている世界は、宇宙のように広い。このぼくがいなければ、地球は成り立たないと思って強く生きる。宇宙にいるぼく。 <p>3. 作者が伝えたかったことを話し合う。同一作者の「わたしたちも」を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分を大切に。自分は、ちっぽけだけど大きな存在でもある。たった一人の自分の夢を描いてほしい。どんな小さい存在でもみんなと違う心を持っている。自分は、大切なひとりだ。ぼくは、一人しかいない。宇宙の中では、小さいが自分の世界は、大きい。自分がいなければこの宇宙は成り立たないと思って強く生きる。自分の世界は、広いから自信を持とう。夢を大切に。 	
<p>(学習のふりかえり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 着目させたい点が、話し合いの中で出てきて、詩の内容を読み取ることができた。意見が出るたびに「あー。なるほど。」の声が聞かれたり、友達との読みの違いを感じ取ろうとしたりする様子が見られた。また、反応がない時は、「～さんの言いたいことが、わかった？」と切り返すと、「こういうことかな。」と友達の考えを補足することができた。「ぼくという 宇宙なんだ」がよく分からないという意見が出て、自分の読みを出し合ったが、宇宙の捉え方で多様な読みが出た。自分は、どの考えに近いか話し合いを広げたが、それぞれの児童が考えを持つことができた。書き込みが十分にできなかった児童も、話し合いの中で詩のイメージを膨らませることができたように思う。 ・ 3時間めの主題を考える学習では、「詩は、感じるもので、受け取り方は、自由で良い。自分の心に強く語りかけてきたことが、作者の伝えたかったことである。」と捉えさせることによって、自分の思いを持つことができた。また、前時の話し合いを受けて、考えることができていた。考えを出し合った後、「わたしたちも」の詩を紹介した。「わたしたちも」の方が伝えたいことが最後の連に書かれてあって分かりやすいが、「ぼく」の詩は、いろいろな考えができることの面白さを感じ取っていた。また、「ぼく」でも自分の可能性が宇宙と同じで、無限に広がっていることを言いたかったのではないかという子も見られた。 	